
いつかどこかで (I don't forget you ~パラレル)

折原奈津子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつかどこかで (I don't forget you) パラレル

【Zコード】

N3366Y

【作者名】

折原奈津子

【あらすじ】

完結済みの連載 I don't forget youのパラレルです。

大好きでずっと一緒にいられると思っていた幼馴染が、留学先のサンフランシスコで行方不明になつて…。でも諦めたくない。きっと会えるって信じてる…。

(前書き)

某出版者様との別作品の出版のお話を頂いた時に、書いてみて欲しいと言われたのでです。

I don't forget youでは違う男性とくついたので、パラレルとして書いてみた作品です。

結局出版のお話は、折原の都合で流してしまいましたので、未発表作品になります。

子供の頃の夢は、真っ白いドレスの花嫁だった。

相手は大好きだった、幼馴染の「權」。

「お前が二十五歳になつても独身だったら、俺が貰つてやるよ。その時は俺がドレスのデザインをしてやる」

アメリカに留学が決まり、通つていた大学を休学する權がそう言った。

「アメリカで何の勉強をする気なの？」

そう訊ねると、笑つて「デザインの勉強」と言つた。

あたしはそれを信じて待とうと思つた。

權も極たまに、日本時間の夜8時頃になると、電話をかけてくれた。アメリカ西海岸からの国際電話は、そう安くはない。だから頻繁にではないけれど、声を聞かせてくれた。

留学して一年後に、アメリカの情勢が悪くなつたことで、日本での大学課程を済ませるために一時帰国した。

：帰国したと言つても、東北のM大に通つており、あたしは東京の衣料品メーカーに勤務していた。

だから会えるのは、大型連休の時だけ。

東京まで愛用の青いハーレーで帰つてくる權と、權の欲しがつた食器やファブリックを土産に新幹線に乗るあたし。

お互ひが交互に、相手の暮らす街まで出向くのが、言葉にしたわけでもないのにルールとしてそこにあつた。

櫂のスケッチブックは、あれからもずっと櫂の両親の住む家のアトリエにある。

アメリカに戻り、『デザインの勉強を続けてもひっすぐ卒業という時。卒業制作のための写真を撮りに出掛けた櫂は、愛用のハーレーを残して姿を消してしまった。

横転したハーレーの傍には、明らかに血痕があり…事故にあったのは間違いないのだろう。

でも、櫂だけがいなくなってしまった。

あたしの元に届いた手紙には、「もうすぐ卒業。帰国したら、お前に会いに行く。待つてろよ、蘭」とだけ書いてあった。

「蘭ちゃん、そろそろ櫂を忘れてお嫁に行かなくちゃね」

櫂の母親にそう言われた。

でも、あたしの中の櫂は、まだいなくなっていない。今でもひょっこり、帰つて来そうな予感がしていた。そしてあたしは、留学を決めた。

櫂の暮らしていた、西海岸の街へ…。

この街にいれば、いつか櫂に会える気がして。この街のどこかで、ばつたり会えるような気がして。優しい目をした笑顔の櫂に、きっとまた会える気がして。

「おばちゃん? うん、元気だよ。ちゃんと食べてるってば…。英語もなんとかなってきたから、友達も増えたし…心配しないで」

櫂の母親からは、時折電話がかかってくる。

電話代も高いから、早々に切るようにしているけれど。

今日も電話を切つた後、あたしは櫂が消えた所へ出掛けた。なんとなく…予感がして。

いつかどこかで、櫂に再び会えると信じていた。

「……櫂？」

ハーレーの倒れていた所に、立っている後姿……。
凄く懐かしくて、逢いたかつた人の後姿だ。
振り向いたその人の、目が大きく見開かれる。
間違いない！生きてくれた！

きっと逢えると、心のどこかで信じていた。
今度は離れないよう……広げられた両腕の中に、あたしは迷わず飛び込んだ。

(後書き)

文字数が決められていたため、こんな感じの短編になりました。
(制限は原稿用紙4枚でした)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3366y/>

いつかどこかで (I don't forget you ~パラレル)

2011年11月8日01時07分発行